



225

 PORT ELLENZ

*Brand Story*  
*Brand Story*

ポートエレン。

それは、静かで穏やかな港でありながら、

かつて多くの船乗りたちが集い、活気に満ち溢れていた場所。

長い航海を終えた船が身を寄せ、新たな旅立ちへの活力を養う、そんなイメージがその名前には宿っていた。

そして、ギリシャ神話に登場する美の女神「Ellen (Helene)」のように、

「輝くもの」として、この港に集う人々を優しく照らし、心を癒す力を持つ。

人生は、時に穏やかで、時に荒々しい海を渡る航海のようだ。

同じく「PortEllenz」という名を持つこの酒場も、

航海の途中で疲れた人々が立ち寄り、心を癒し、明日への活力を得る場所でありたい。

美の女神「Ellen (Helene)」のように、「輝くもの」として、お客様の心を温かく包み込み、

前向きな気持ちで再び大海原へ送り出したい。





「PortEllenz」の灯がともる。

今日もまた、航海を終えた人々が安らぎを求めてやってくるだろう。

磨き上げられたカウンター、丁寧に拭かれたグラス。

何気ない日々の繰り返しのうちに、確かな喜びがある。

お客様の笑顔を見る瞬間の充実感。

それぞれの人生を生きる私たちは、この港で、ささやかながらも確かな輝きを放っている。

時には忙しさに追われることもあるけれど、お客様の「ありがとう」の一言が、私たちの人生を穏やかに照らしてくれる。

この温かい光に吸い寄せられるように、足取りも自然と軽くなり、その扉を開けると、

いつもの笑顔と心地よい喧騒が迎える。

腰を掛け、馴染みの顔を見つけると、自然と安堵のため息が漏れる。

今日の航海で見た美しい景色、乗り越えた困難、そして明日の航海への希望。

ここでは誰もが、ありのままの自分でいられる。

喜びを分かち合い、胸に秘めた悲しみを吐き出す。そして、また明日、それぞれの航海へと出発する。

ポートエレンは、皆にとって、束の間の休息であり、明日への活力を養う、かけがえない港。

人生という名の航海を続ける者にとって、「輝ける場所」でありたい。

順調に平和な日々を送っていた港町。そこに天災、感染症が広まり、活気のあった酒場へも暗い影を落とす。  
あっという間に港町は一変した。  
かつて賑わいを見せていた港町の酒場「PortEllenz」も例外ではなく、客足は潮が引くように遠のいた。

日々の糧であった酒場の扉を開けることは、罪のように感じられ、  
頼りにしていた酒場の仲間たちは、嵐に吹き飛ばされる木の葉のように、一人、また一人と姿を消していった。  
営業停止 ー。  
静まり返った店内には、過ぎ去った賑わいの残像だけが漂っている。  
その時初めて、当たり前だと思っていた喧騒の日々が、いかに得難いものだったのかを痛感した。

お客様や仲間の語らい、歌声、笑い声で満ちていた港町の酒場は、まるで時が止まったかのように静まり返っていた。

人と人の触れ合いは完全に禁止され、社会から否定されているような感覚。  
「PortEllenz」のメンバーも皆、仕事が出来ず苦しみ、離れたたくなくても離れざるを得ない状況になっていった。

社会から分断され、大切な人達の顔を見ることも叶わず、仲間も遠のいていく。  
「PortEllenz」は今や不要になってしまったのか…

あの活気に満ちた「PortEllenz」を、あの温かい笑顔が溢れる場所を、もう一度取り戻したい。  
営業ができない分、時間だけは持て余すほどに与えられていた。  
何かをしていないとすぐに不安に駆られ考え込んでしまう状況。  
なりふり構わず、がむしゃらにできることを模索し、とにかくただ一生懸命、営業再開をするために奮闘した。



天災は長い時間を経て、事態は収束を迎える。

ポートエレンにも少しずつ人が戻って来た。

生きていれば楽しいことだけではなく、辛いことも経験する。

「PortEllenz」の扉を開ける人々は皆、それぞれの航海の中で、喜びや悲しみ、苦難や希望を経験している。

ここでは、そのすべてを語り、分かち合うことができる。

嬉しかったこと、苦しかったこと、そして次なる航海への心躍る計画。

港町の酒場「PortEllenz」は、どんな感情も優しく受け止める。

この港に集う人々は皆、それぞれの人生を輝かせる主人公なのだ、心から実感してほしい。

喜びは分かち合うことで、さらに大きく膨らむ。

悲しみは打ち明けることで、心が少し軽くなる。

「PortEllenz」では、お客様もスタッフも関係なく、誰もが「輝く航海者」として尊重される。

そして、明日への活力を得て、それぞれの船へと戻っていく。

再び荒海へ漕ぎ出す彼らの背中には、きっと、前向きな気持ちと、明日を生きるための確かな糧が宿っているだろう。

港町の酒場「PortEllenz」は、いつも笑顔で航海者たちを見送る。

それこそが、「PortEllenz」という酒場が、この街で果たすべき、かけがえのない役割である。



# MISSION

自己肯定感が高まり、  
明日への活力が生まれる場所であること



## VISION

働く仲間が誇りを持ち、成長を実感しながら、  
長く活躍できる魅力的な職場となる

# VALUE

## 交流

語らいの港

心を通わせる会話が生まれる場所

## 笑顔

灯火

人々を照らす温かい笑顔の象徴

## 共感

感情の海図

多様な感情を理解する

## マナー

信頼の錨

安心できる心地よい空間

## 楽しい

記憶の宝

心に残る楽しい思い出

## 充実感

人生の輝き

生きがいを感じる瞬間